

1. N-タク実証実験結果の概要

1.1 実証実験

項目	概要
実施期間	令和元年9月17日(火)～令和元年11月15日(金)：計40日間 ※平日の月～金曜日のみ（土日祝日は除く）
運行時間帯	午前8時～午後4時30分
対象者	長久手市民の方で、次に掲げるいずれかに該当する方 ・満75歳以上の方（期間中に75歳になる方も可） ・満12歳以上で障がいがある方 ・運転免許証自主返納者 ・満65歳以上で運転免許証を取得したことがない方等 ・要支援者、要介護者、事業対象者（介護保険制度によるもの）
料金	一般利用者：1回300円 モニター：片道20回まで無料（それ以上は1回300円）

1.2 運行実績集計結果

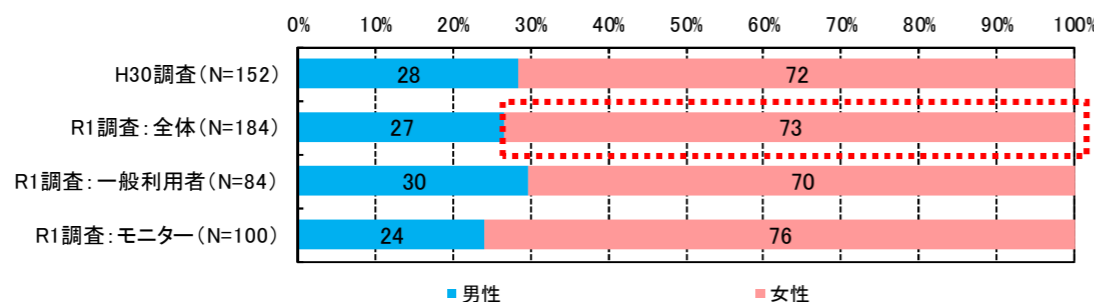
(1) 利用実績（40日間）

項目	令和元年度	平成30年度
延べ利用人数	1,487人 ・一般利用者：453人 ・モニター：1,034人	696人
実利用人数 (登録者数346人) 一般利用者202人 モニター144人	184人 ・一般利用者：84人 ・モニター：100人	152人
1人あたりの平均利用回数	8.1回 ・一般利用者：5.4回 ・モニター：10.3回	4.6回
実証実験期間中の平均利用人数	9/17～10/14：35.8人 10/15～11/15：38.3人 2か月間平均：37.2人	9月：14.2人 10月：20.0人 2か月間平均：17.4人
1人当たりの移動距離	5.15km (7,653km÷1,487人)	2.45km (1,705km÷696人)
1日平均移動距離	191.3km	42.6km
乗合率	36.05% (乗合成立回数482回 ÷ 運行回数1,337回)	4.65% (乗合成立回数29回 ÷ 運行回数623回)

(2) 利用者属性

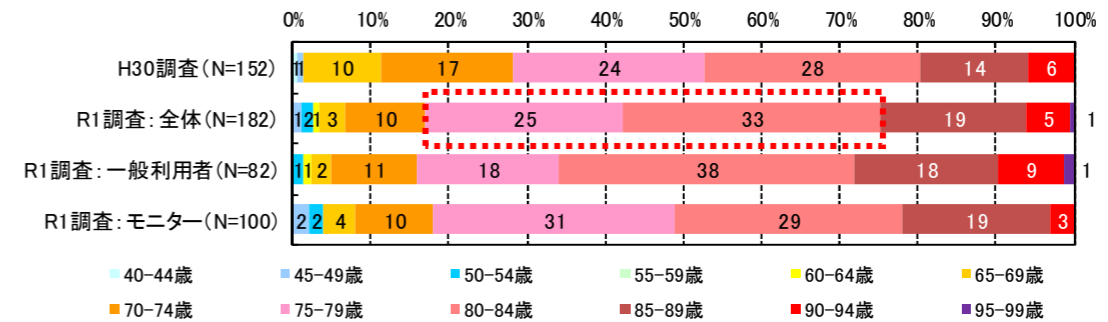
① 性別

● 全体では女性が73%を占め、昨年度調査と同程度の男女構成であった。



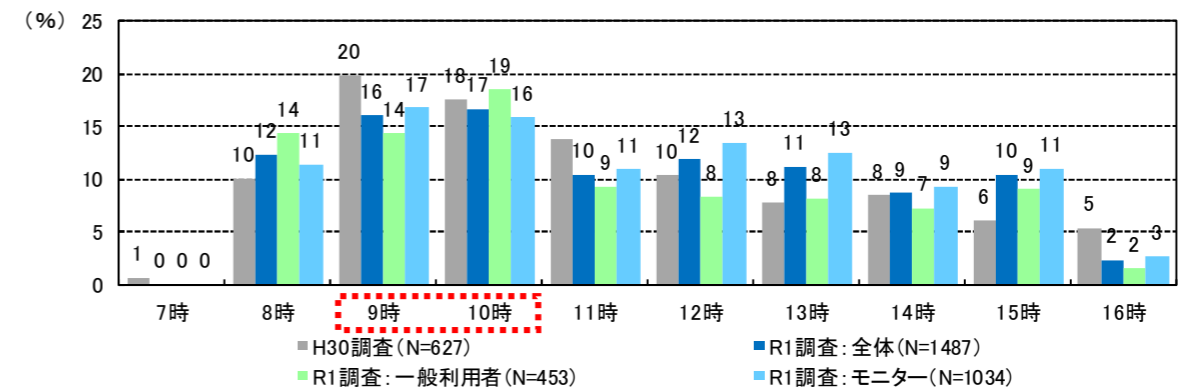
② 利用年齢層

- 全体では80～84歳が33%と最も多く、次いで75～79歳が25%を占め、合計で58%を占める。
- 昨年の調査に比べると、75歳以上の利用割合が多くなっている。



③ 時間帯別利用状況

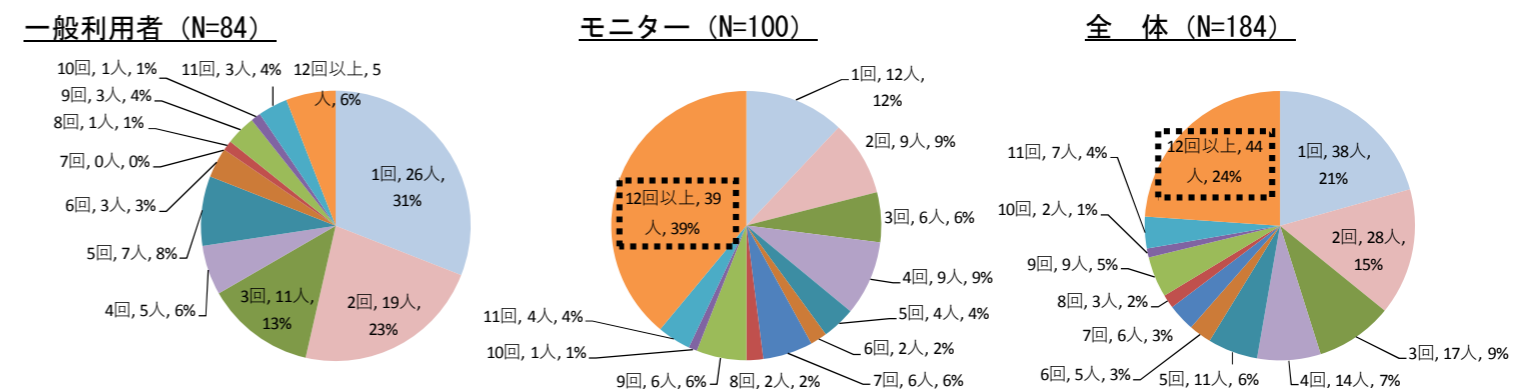
- 9時台、10時台に利用が多い傾向がみられ、昨年度調査と同様の傾向であった。



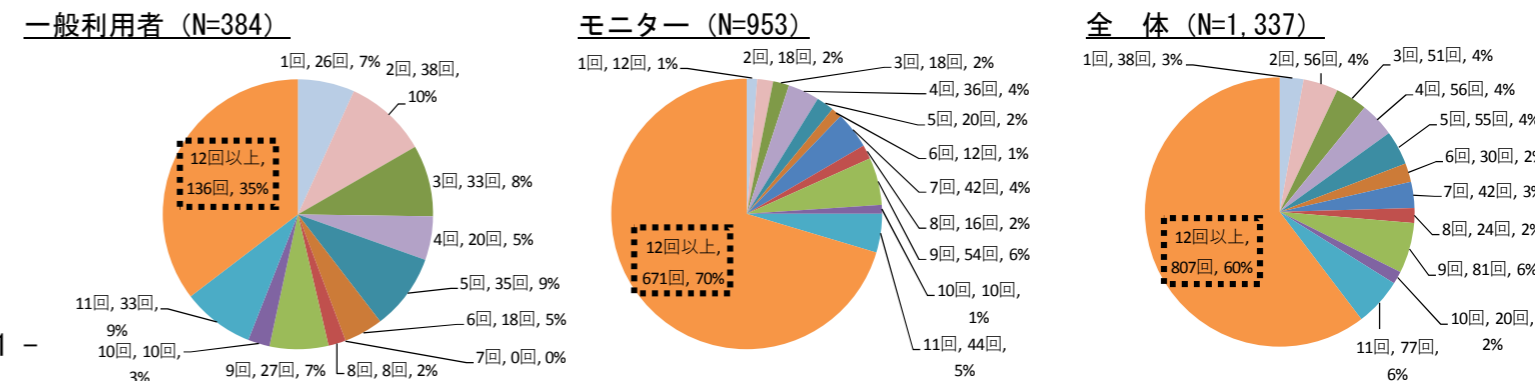
④ 乗車回数別実利用人数及び乗車回数別運行割合

- 全体では、乗車回数別実利用人数は12回以上乗った方が24%を占め、乗車回数別運行割合は12回以上乗った方の割合が60%を占めており、一部の方の利用に偏っている状況が伺える。

【乗車回数別実利用人数】※介添人除く



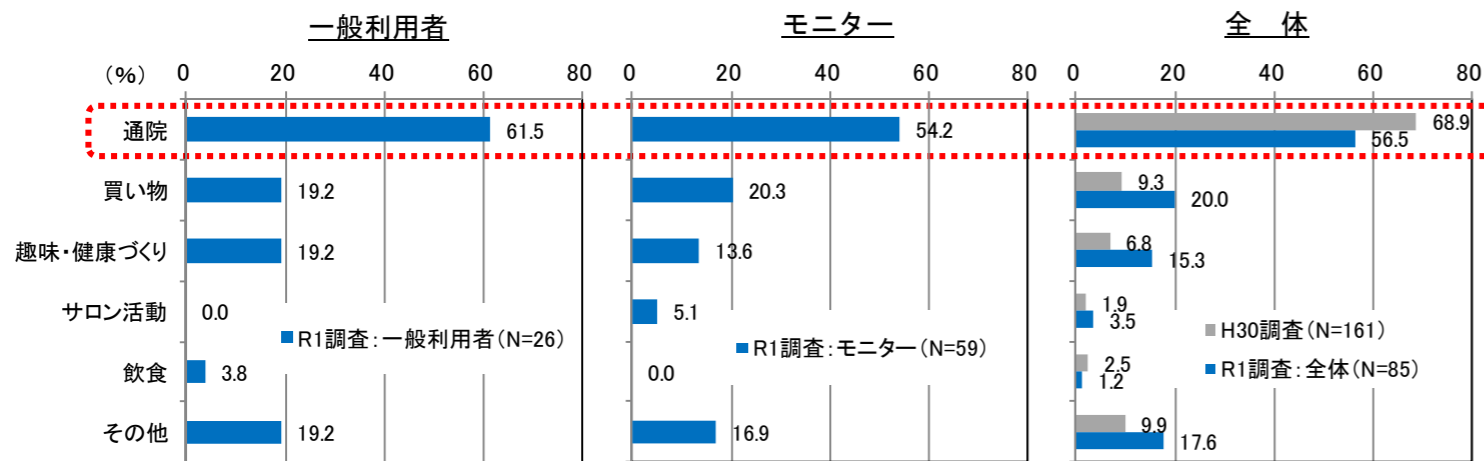
【乗車回数別運行割合】※介添人除く



2. 乗車時アンケート分析

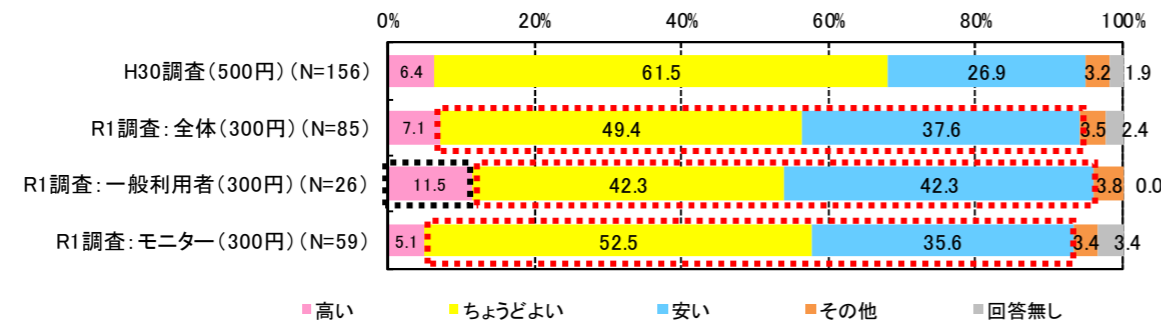
(1) 外出した目的

- 全体的に「通院」目的が最も多く、昨年度調査と同様の傾向であった。
- 「通院」目的は、一般利用者の方が高くなっている。



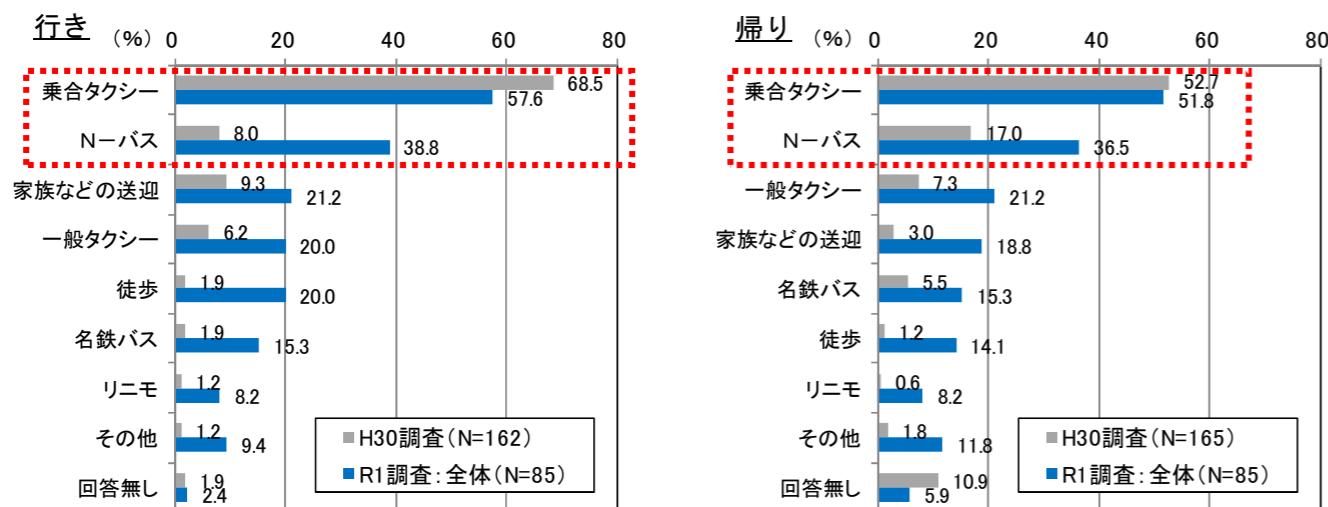
(2) 利用料金1回300円について

- 全体的に「ちょうどよい」が最も多く、次いで「安い」が同程度または多くなっている。
- 「安い」の割合は昨年度調査より多くなっている一方で、一般利用者では「高い」の割合が昨年度調査より多くなっており、N-バスと比べられている可能性が推察される。



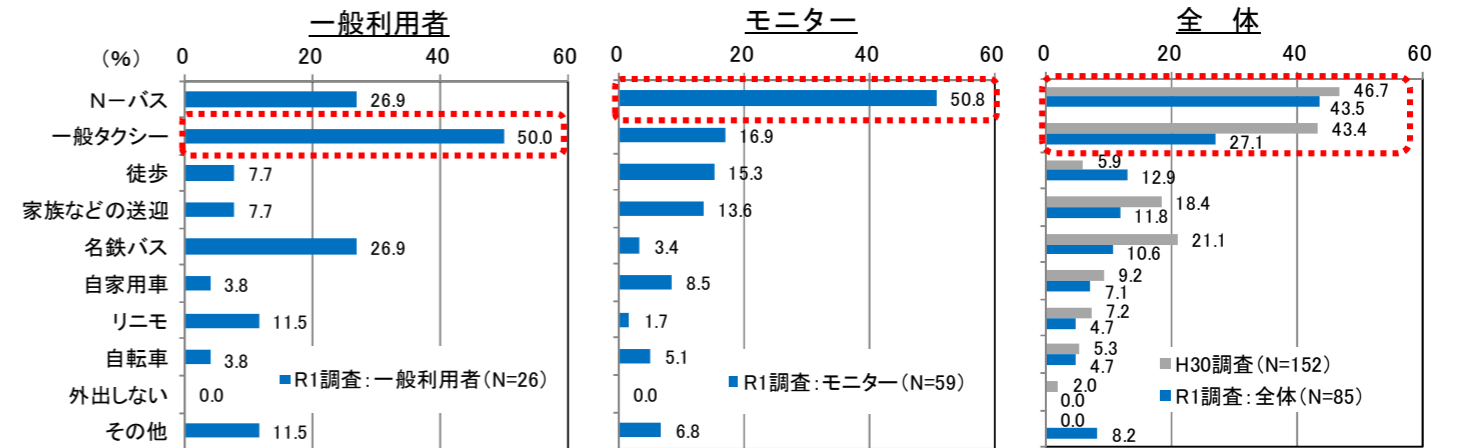
(3) 目的地までの手段(複数回答)

- 行き、帰りとも、乗合タクシーに次いで、N-バスが多くなっている。



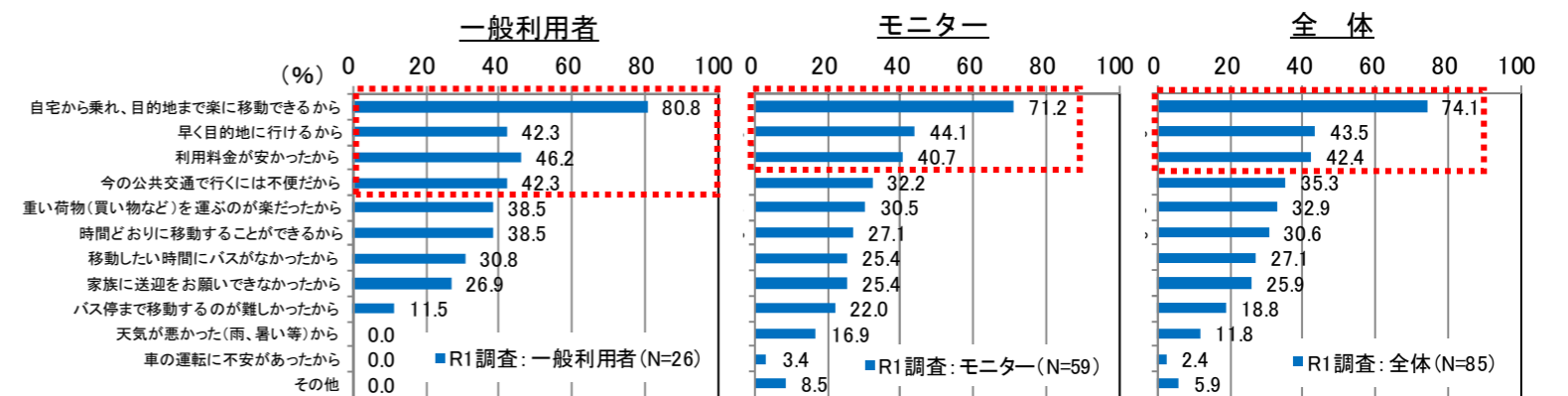
(4) 乗合タクシーがない場合、今回の目的地までの普段の移動手段(複数回答)

- 全体では「N-バス」が43.5%で最も多く、次いで「一般タクシー」が27.1%となっているが、一般利用者は「一般タクシー」が最も多く、モニターは「N-バス」が最も多くなっている。



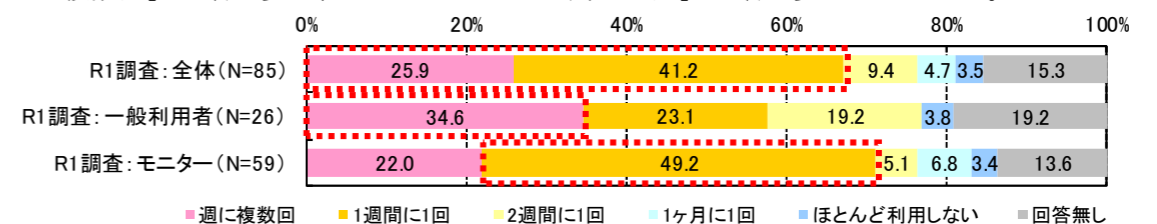
(5) 今回乗合タクシーを利用しようと思った理由(複数回答)

- 全体的に「自宅から乗れ、目的地まで楽に移動できるから」が最も多くなっており、次いで「早く目的地に行けるから」と「利用料金が安かったから」が40%を超え、一般利用者では「今の公共交通で行くには不便だから」も40%を超えている。



(6) 実証実験期間中の乗合タクシーの利用予定

- 全体では「1週間に1回」が最も多く、次いで「週に複数回」が多くなっているが、一般利用者は「週に複数回」が最も多く、モニターは「1週間に1回」が最も多くなっている。



(7) 乗合タクシーが本格導入された場合の運転免許の返納の有無

- 全体では「考える」が最も多く、次いで「考えるきっかけになる」が多くなっているが、一般利用者は「すでに返納している」が最も多く、モニターは「考える」が最も多くなっている。

